



連合愛知

- ・ 労災の防止
- ・ 快適な職場
- ・ 心身の健康

センターだより

愛知県勤労者安全衛生研究センター
〒456-0002
名古屋市熱田区金山町1丁目14-18
ワークライフプラザれあろ3F
TEL(052)684-0003
FAX(052)684-0303
連合愛知ホームページからも閲覧できます
<http://www.rengo-aichi.or.jp>

第30回総会について確認 ～安全衛生センター第4回理事会～

10月29日、連合愛知安全衛生センター「第4回理事会」を開催した。冒頭、可知理事長から「来月の総会を控え、次年度の活動について忌憚のない意見をいただきたい。来年センター設立30周年を迎えるにあたり、安全衛生活動をより末端の職場に拡げていくためのしかけを考えていく必要がある」と挨拶があった。

主な内容は次のとおりである。

- 7～9月の活動報告の後、確認事項①理事の交代
②会計監査の交代 ③当面の日程について確認した。

◇理事の交代

構成組織	新理事	旧理事
全国ガス	阿部 智彦	藤田 真帆
国 税	馬崎 雄一	水野 雅之

◇会計監査の交代

構成組織	新役員	旧役員
全自交	本田 有	服部 達彦

議事については、①「第30回総会」の開催（2018年度活動報告と決算報告、平成29年度労働保険事務組合関係報告、規約改正（案）、2019年度活動計画（案）・予算（案））②2019年度暫定予算 ③「第92回日本産業衛生学会」への対応 ④「第1回理事会」の開催について提案し、すべて承認された。

その中で、1992年度から取り組んできたエイズ対策については、近年の医療の進歩に鑑みて一定の役割を終えたと判断し、「2018世界エイズデーフォーラム」をもって終了し、新たな課題にむけた活動に舵をきることにする。また、来年の「第31回総会」をセンター設立30周年の記念総会として開催し、記念講演に加え、参加者の交流の場を設けるとともに、センター機能をさらに強化していくための事業を展開することを確認した。

最後に、理事研修として「非正常作業のリスク対策」のDVDを鑑賞した。



DVDを無料貸出中！ ～組合の研修等で活用を～

保有している安全衛生に関するDVDは、連合愛知ホームページ（連合愛知の取り組みタブをクリック）から閲覧可能です。貸出状況を事前に電話（☎052-684-0003）で確認のうえ、利用申込書（ホームページからダウンロード可）をFAXしてください。

12月1日～31日は 職場の年末安全衛生推進運動実施期間



第13次労働災害防止推進計画の初年度である本年の愛知県内の労働災害発生状況（9月末現在）は、休業4日以上死傷災害が4,527件、うち死亡者は31人と2年連続で増加している。

このような中、年末の慌ただしさからくる作業優先の考えや、安全衛生対策の不徹底から発生する労働災害

害が起きることのないよう、各職場で以下の事項についてしっかり取り組もう。

全業種の事業場で取り組む事項

- ① 経営トップが安全衛生管理方針の決意を表明し、運動期間中に職場巡視を行って、労働者の安全意識の高揚を図る。
- ② 設備・機械等の危険源の性質ごとに、リスクアセスメント手法を用いて安全衛生対策が適切に講じられているか確認し、より安全な対策を検討する。
- ③ 「故障中」「要修理」などの表示のまま放置された設備や仮囲いなどの応急対策の箇所への、適切な恒久的安全衛生対策を実施する。
- ④ 使用している化学物質の安全性データシート（SDS）を利用し、安全な取扱方法や異常時の対処方法の教育、保護具の点検などの安全衛生管理を実施する。
- ⑤ 安全作業手順を遵守させるため、各労働者に安全衛生作業マニュアルを再確認させる。
- ⑥ 積雪・道路凍結への対応として、靴の滑り止め、冬用タイヤへの換装、チェーンの準備を行っておく。
- ⑦ 転倒災害防止、腰痛予防対策を推進する。

安全衛生クイズ 基本編 17

脚立については、労働安全衛生規則で足と水平面との角度を【 】以下とするよう定められている。

- ア. 45度
イ. 75度
ウ. 90度



（労働調査会「労働安全衛生広報（別冊）」より）※答えと解説は裏面

健康で長く働ける環境づくりのために

～健康づくり指導者セミナーに参加～

10月3日・4日の2日間、連合愛知と経営者協会が共同し、愛知県健康づくり振興事業団が主催する「健康づくり指導者セミナー」に、連合愛知から5名が参加した。

「健康で長く働くことのできる環境づくりのために」をテーマに、健康経営、仕事と病気治療の両立、仕事とメンタルヘルス対策の両立について講義と事例紹介があった。グループワークでは、会社の保健師や健保組合の担当者など、異職種の方たちと情報交換を図ることができ、視野を広げることができた。

今回の講義の中で、全健保組合加入者の健康状態、医療費、予防・健康づくりの取り組み状況などのデータを見える化した「健康スコアリングレポート」について紹介があった。全国2,700万人のデータをわかりやすくグラフ化し、8月末に保険者に対して通知されているそうだが、参加者の認知度は非常に低かった。業態平均のデータも出ているので、このレポートと事業所ごとに持っている独自データを突合分析すれば、かなり有効なアクションにつなげることができるのではないだろうか。

また、2年連続で健康経営銘柄に選定されている株式会社デンソーの健康づくりの取り組みは、楽しく生き生きとした職場づくりにもつながっており、集団に対するアプローチの大切さに気付かされた。



健康スコアリングレポート

第77回全国産業安全衛生大会 IN 横浜

テーマ：安全・健康の決意新たに
トップの率先 現場の改善

10月17日～19日の3日間、全国産業安全衛生大会が横浜アリーナはじめ横浜市内の各会場で開催され、事業場の経営や安全衛生、環境保安、防災・危機管理などに携わる11,200名が参加した。

1日目の総合集会では、「第13次労働災害防止計画」の初年度にあたり、その目標を達成するために、経営トップの率先のもと、安全と健康を守る現場での自主的な安全衛生活動を改善し、すべての関係者が一丸となって労働災害防止対策に取り組むことを、大会宣言として全員で確認した。

分科会では、事業場からの安全衛生に関する取り組み事例報告、専門家からの特別報告、パネルディスカッションなどがあり、安全で健康、快適な職場づくりに生かすための有益な情報を得ることができた。

今大会に参加した安全衛生センター理事会の役員からの報告は、次号以降で紹介していく。

全国労働衛生週間にむけて

～第2回安全衛生担当者研修会を開催～

9月27日、アピタン2階大ホールにおいて「第2回安全衛生担当者研修会」を開催し、構成組織・加盟組合・安全衛生センター役員から72名が参加した。

冒頭、昨年末から禁煙を継続中の可知理事長から本日の研修の主旨を説明し、「研修で得たことを各職場に持ち帰り、10月の全国労働衛生週間に合わせて展開してほしい」と挨拶があった。

一つ目は、健康増進法の改正で再び関心が高まっている受動喫煙対策をテーマに、産業医科大学教授の大和浩氏に講演いただいた。「受動喫煙対策や禁煙活動については、国の政策を待つのではなく、従業員を守るために会社で独自の健康対策をしていくべき」との話があり、職場の全面禁煙化の進め方について、好事例の紹介があった。また、受動喫煙のリスクや加熱式タバコの有害性などについても正しい認識を得ることができ、職場や自身の禁煙を考える契機にもなった。



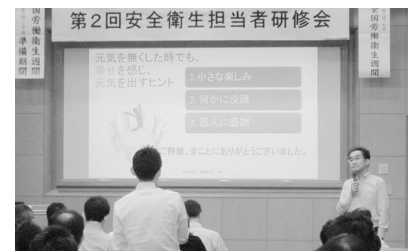
▲大和氏

16年間で7回の禁煙失敗経験を持つ講師の熱い思いに感化され、禁煙を始めてみよう…という意識の変化があった参加者も複数名いた。

二つ目は、ストレスチェックの集団分析を活用したメンタルヘルス対策をテーマに、株式会社健康企業代表で医師の亀田高志氏から講演いただいた。ストレスチェック後の高ストレス者への対応と集団分析の具体的な方策、メンタル不調者の職場復帰支援のポイントについて、ディスカッションを交えたわかりやすい説明であった。講演後は質問も相次ぎ、関心の高さが伺えた。配付された『職場環境改善のためのヒント集』は、衛生委員会や各職場で議題に挙げて話し合う際に大いに活用してほしい。その際、講師のアドバイスにあったように、ダメなこと、できていないことを話すのではなく、まずは職場の長所について話すことから始めてみよう！



▲亀田氏



安全衛生クイズ基本編 ⑩

【答え】イ

<労働安全衛生規則第528条>

「事業者は、脚立については、次に定めるところに適合したものでなければ使用してはならない」とした同条第三号で、「足と水平面との角度を75度以下とし、かつ、折りたたみ式のものにあつては、脚と水平面との角度を確実に保つための金具を備えること」と定められています。